

1	2	3	4	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

5. 心理的・精神的自立とは、納得できないことに対して拒否する態度を示すことである。

1	2	3	4	5

6. 心理的・精神的自立とは、他者との依存的ではない良好な人間関係を構築することである。

1	2	3	4	5

7. 心理的・精神的自立とは、家族へ依存的にならないことである。

1	2	3	4	5

経済的自立について

1. 経済的自立とは、安定した職業に就くことによって、経済的に他に依存しないことである。

1	2	3	4	5

2. 経済的自立とは、経済的な安定のために社会保障制度を適切に利用することである。

1	2	3	4	5

3. 経済的自立とは、就労できなくとも、生活費を自主的に管理できるようになることである。

1	2	3	4	5

社会的自立について

1. 社会的自立とは、自分自身を取り巻く人々や社会から、価値ある者として受け入れられるようになることである。

1	2	3	4	5

2. 社会的自立とは、自らの存在を、価値ある者として感じていることである。

1	2	3	4	5

1	2	3	4	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	2	3	4	5

3. 社会的自立とは、自らの生活に影響を受ける諸政策、制度・サービスを選択することである。

4. 社会的自立とは、自らの生活に影響を与える政策やサービスの計画立案、決定、管理運営の過程に参加することである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

生活スタイルにおける自立について

1. 生活スタイルにおける自立とは、自分に合った生活スタイルを決定することである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

2. 生活スタイルにおける自立とは、自分で自分の生活の場を維持しているようにすることである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

3. 生活スタイルにおける自立とは、生活の質を向上させるために生活の状況を改良し、適切な生活を創り出すことである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

4. 生活スタイルにおける自立とは、親との同居や施設での生活ではなく、アパートなどを借りるなどして独立した生活を送ることである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

自己実現としての自立について

1. 自己実現としての自立とは、一個人として生活・人生の主人公となることである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

2. 自己実現としての自立とは、自らの生活の主体者として自己形成を行っていくことである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

3. 自己実現としての自立とは、生活を自ら決定し、制御し、充実した自己の実現を求めて努力することである。

1	2	3	4	5
<hr/>				

1 2 3 4 5
 そう思う どちらかといえばそう思う どちらともいえない どちらかといえばそう思わない そう思わない

4. 自己実現としての自立とは、主体的に自己の生活を形成し、自己実現をはかっていこうとすることである。

1 2 3 4 5

5. 自己実現としての自立とは、地域社会の中で生活し、さまざまな社会活動に参加していくことである。

1 2 3 4 5

6. 自己実現としての自立とは、個人の役割が尊重され、質の高い生活を送る機会が与えられることである。

1 2 3 4 5

VIII. 新しい自立観の認識について

自立観は、1970年代以降の自立生活運動の影響を受け、職業的更生や経済的自立を意味するところから、主体的に自己の生活を形成し、自己実現をはかっていくことであるという新しい考え方が生まれてきています。

では、この新しい自立観は、障害者福祉という枠内にとどまらず、一般社会においてもその有効性があると思いますか。回答選択肢の中からお答えください。

この質問は、自立観に関してあなたの考え方の正否を問うものではありません。

1 2 3 4 5
 そう思う どちらかといえばそう思う どちらともいえない どちらかといえばそう思わない そう思わない

1. 新しい自立観は、障害者福祉の枠内においてのみ有効である。

1 2 3 4 5

2. 新しい自立観は、障害者福祉の枠から離れ、一般の社会の枠内においても有効である。

1 2 3 4 5

質問は以上です。貴重なお時間を割いていただき、ありがとうございました。

「障害者（通所・入所）施設長の

障害者施策に関する意識」調査協力をお願い

皆様におかれましては、日々障害者福祉発展のためにご活躍のことと存じます。

平成15年に支援費制度が施行され、同年12月には、厚生労働省により「新障害者基本計画及び重点施策5か年計画」（新障害者プラン）が策定されました。今日、障害者福祉の分野は大きなターニングポイントを迎えているのではないのでしょうか。その転換期の中であって、福祉サービスのさらなる向上に努力されている実践者の皆様のご意見は、非常に重要なものであると考えます。

そこで、今回、厚生労働科学研究の一環として、知的障害者・身体障害者・精神障害者関係施設の職員の方を対象に、「障害者（通所・入所）施設長の障害者施策に関する意識」についての調査を実施させていただくことになりました。

日々の業務でご多忙のところ誠に恐縮ではありますが、何卒本調査へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

つきましては、本アンケート用紙に回答をご記入の上、**3月5日（土）**までに、同封の返信用封筒にてご返送ください。

本調査は、大阪市立大学大学院 生活科学研究科 障害者・高齢者福祉学分野研究室（担当・分担研究者 岡田進一）が行い、調査結果は統計的に集計・処理されますので、そこから貴施設名が特定されることはございません。また、心ばかりではありますが、お礼として粗品を同封させていただきます。

なお、この調査についてのご質問等がございましたら、下記の担当までご連絡ください。

平成17年2月

厚生労働科学研究費補助金「障害者保健福祉総合研究事業」

主任研究者 大阪市立大学大学院 生活科学研究科

生活保障科学研究室 教授 坂口正之

分担研究者 大阪市立大学大学院 生活科学研究科

社会福祉学分野研究室 教授 白澤政和

問い合わせ先

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院 生活科学研究科

障害者・高齢者福祉学研究分野研究室

電話・FAX 06-6605-2858

担当： 高橋・仁坂・樽井・岡田

下記Ⅰ～Ⅷの質問にすべてお答えください。回答は、選択肢の中から、もっともあてはまるもの一つに○をつけてください。

Ⅰ. あなた自身についてお尋ねします。(少々立ち入ったことをお尋ねしますが、本調査に必要なことですので、お答えくださいますようお願いいたします。)

1. あなたの年齢をお答えください。

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代
⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上

2. あなたの性別をお答えください。

- ① 男 ② 女

3. あなたのお持ちの資格・免許についてお尋ねします。お持ちの資格すべてに○をしてください。

- ①社会福祉士 ②介護福祉士 ③精神保健福祉士
④社会福祉主事 ⑤言語聴覚士(言語療法士) ⑥理学療法士
⑦作業療法士 ⑧介護支援専門員 ⑨ホームヘルパー2級
⑩ホームヘルパー1級 ⑪看護師 ⑫保健師
⑬助産師 ⑭栄養士 ⑮医師
⑯保育士 ⑰幼稚園教諭 ⑱小学校教諭
⑲中・高校教諭 ⑳養護教諭 ㉑その他()

4. あなたの最終学歴についてお答えください。

- ①中学校 ②高校 ③専門学校・専修学校
④短期大学 ⑤大学 ⑥大学院

5. あなたが専攻していた分野についてお答えください。

- ①医学 ②保健学・看護学 ③社会福祉学
④介護福祉学 ⑤教育学 ⑥心理学
⑦社会学 ⑧経済学 ⑨経営学
⑩その他()

6. あなたの現在の職場での就労年数についてお答えください。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ①0～4年 | ②5～9年 | ③10～14年 |
| ④15～19年 | ⑤20～24年 | ⑥25～29年 |
| ⑦30～34年 | ⑧35～39年 | ⑨40～44年 |
| ⑩45～49年 | ⑪50年以上 | |

7. あなたの福祉職としてのトータルの就労年数についてお答えください。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ①0～4年 | ②5～9年 | ③10～14年 |
| ④15～19年 | ⑤20～24年 | ⑥25～29年 |
| ⑦30～34年 | ⑧35～39年 | ⑨40～44年 |
| ⑩45～49年 | ⑪50年以上 | |

8. あなたの、過去1年間の研修会や研究会の参加回数についてお答えください。

- | | | |
|-------|--------|-------|
| ①0回 | ②1～3回 | ③4～6回 |
| ④7～9回 | ⑤10回以上 | |

9. あなたの施設運営者としての勤務年数についてお答えください。(勤務先が同一または変わっている場合を問わず、通算でお答えください。)

() 年

10. あなたは、施設運営者以前の職歴をお持ちですか。お持ちの場合はその分野についてお答えください。

- ① はい (分野:)
(分野:)
- ② いいえ

II. あなたの施設についてお尋ねします。

1. あなたの施設の種類についてお答えください。

身体障害者施設の場合

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| ①肢体不自由者更生施設 | ②視覚障害者更生施設 | ③聴覚・言語障害者更生施設 |
| ④内部障害者更生施設 | ⑤身体障害者療護施設 | ⑥身体障害者福祉ホーム |
| ⑦身体障害者授産施設 | ⑧身体障害者通所授産施設 | ⑨身体障害者福祉工場 |
| ⑩身体障害者福祉センター | ⑪視聴覚障害者情報提供施設 | ⑫盲人ホーム |
| ⑬その他 () | | |

III. あなたの施設（機関）の入所者（利用者）が、地域生活へ移行するために必要な条件として何があげられると考えますか。以下にあげた項目が、条件としてあてはまるかどうか、あなたのお考えをお答えください。

1	2	3	4	5
あてはまる	どちらかといえはあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえはあてはまらない	あてはまらない

施設（機関）側の条件

方針・処遇内容

1. 施設（機関）全体の方針として、地域移行（退所計画）を重視している。

1	2	3	4	5

2. 施設（機関）全体が地域移行（退所計画）に積極的である。

1	2	3	4	5

3. 施設（機関）全体が地域移行（退所計画）に向けた自立生活訓練に積極的である。

1	2	3	4	5

4. 施設（機関）においては、施設（機関）職員に対して、地域移行（退所計画）に向けた勉強会や研修を行っている。

1	2	3	4	5

5. 職員間で、利用者の地域移行（退所計画）に関する話し合いの場が定期的にもたれている。

1	2	3	4	5

職員

1. 地域移行（退所計画）をするための職員の人数が充分である。

1	2	3	4	5

2. 地域移行（退所計画）をするための職員の資質は充分である。

1	2	3	4	5

3. 職員間で、地域移行（退所計画）に関する意識が一致している。

1	2	3	4	5

4. 地域移行（退所計画）に対して、職員同士の協力体制が充分である。

1	2	3	4	5

施設長（運営責任者）について

1. あなたは地域移行（退所計画）に積極的である。

1	2	3	4	5

2. あなたは地域移行（退所計画）を行うための施設（機関）運営能力がある。

1	2	3	4	5

1 あてはまる
2 どちらかといえばあてはまる
3 どちらともいえない
4 どちらかといえばあてはまらない
5 あてはまらない

3. あなたは地域移行（退所計画）を職員全体が理解できるように促している。

1 2 3 4 5

4. あなたは地域移行（退所計画）を職員の日々の業務に反映させている。

1 2 3 4 5

5. あなたは地域移行（退所計画）に関して職員の意見を参考にしている。

1 2 3 4 5

6. あなたは地域移行（退所計画）を行うために、適切かつ効率的な予算を執行している。

1 2 3 4 5

職員の利用者・親・地域への対応

1. 職員が、利用者の地域移行（退所計画）への希望を把握している。

1 2 3 4 5

2. 職員が、利用者に対して、地域移行（退所計画）・地域生活の説明を行っている。

1 2 3 4 5

3. 職員が、利用者の親に対して、地域移行（退所計画）の説明を行っている。

1 2 3 4 5

4. 職員が、利用者の親の地域移行（退所計画）への同意を得ている。

1 2 3 4 5

5. 職員が、地域に対して、地域移行（退所計画）・地域生活に関する説明を行っている。

1 2 3 4 5

6. 職員が、地域に対して、施設でのボランティアや行事の手伝い等のお願いを行っている。

1 2 3 4 5

利用者側の条件

本人

1. 地域移行をする（地域生活をする）利用者の障害の程度が軽いほうが望ましい。

2. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、身辺自立しているほうが望ましい。

3. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、常時1対1の介護が必要ではない利用者であるほうが望ましい。

4. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、性格が温厚であるほうが望ましい。

5. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、職員との関係が良好に築きやすい利用者であるほうが望ましい。

6. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、年齢が高いほうが望ましい。

7. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、年齢が低いほうが望ましい。

8. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、施設入所年数（機関利用年数）が短いほうが望ましい。

9. 地域移行をする（地域生活をする）利用者は、施設入所年数（機関利用年数）が長いほうが望ましい。

10. 地域移行をする（地域生活をする）ことを支援する場合には、本人が希望しているほうが望ましい。

1	2	3	4	5
1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 そう思わない
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				
1	2	3	4	5
┌───────────┴───────────┐				

1
そう思う

2
どちらかといえばそう思う

3
どちらともいえない

4
どちらかといえばそう思わない

5
そう思わない

親

1. 利用者の親が地域移行（退所計画）に同意しているほうが望ましい。

1 2 3 4 5

2. 利用者の親が施設（機関）の方針に協力的であるほうが望ましい

1 2 3 4 5

3. 親の会が地域生活型ホームの建設費等の援助を行うほうが望ましい。

1 2 3 4 5

地域の側の条件

1. 地域の方々が障害者に関して理解を示しているほうが望ましい。

1 2 3 4 5

2. 地域の方々が、障害者の地域移行（退所計画）・地域生活に関して理解を示している望ましい。

1 2 3 4 5

3. 地域の方々が地域生活型ホームの建設用地の提供をするほうが望ましい。

1 2 3 4 5

1
あてはまる

2
どちらかといえばあてはまる

3
どちらともいえない

4
どちらかといえばあてはまらない

5
あてはまらない

行政の側の条件

1. 行政が提供する、施設（機関）への補助金が充分であるほうが望ましい。

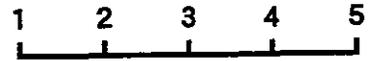
1 2 3 4 5

2. 行政が提供する、地域生活型ホームへの補助金が充分であるほうが望ましい。

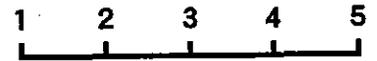
1 2 3 4 5

1 あてはまる
 2 どちらかといえはあてはまる
 3 どちらともいえない
 4 どちらかといえはあてはまらない
 5 あてはまらない

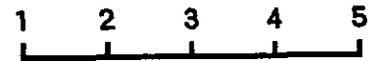
3. 行政が提示する、職員の人数配置基準の規制を緩和することが望ましい。



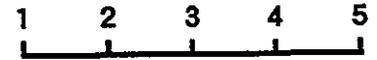
4. 行政の提示する、職員の人数配置基準の規制をするほうが望ましい。



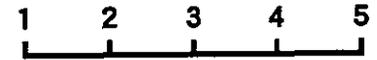
5. 行政が提示する、地域生活型ホームへの職員の人数配置基準の規制を緩和するほうが望ましい。



6. 行政が提示する、地域生活型ホームへの職員の人数配置基準の規制をするほうが望ましい。



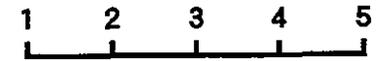
7. 行政が提示する、地域生活型ホームの設置基準の規制を緩和するほうが望ましい。



8. 行政が提示する、地域生活型ホームの設置基準の規制をするほうが望ましい。



9. 行政が、施設（機関）に対して地域移行（退所計画）に関する研修を行うほうが望ましい。



10. 行政が地域移行（退所計画）に関して理解を示しているほうが望ましい。



11. 行政が地域移行（退所計画）に関して協力的であるほうが望ましい。



IV. 2003年12月に厚生労働省により、「新障害者基本計画及び重点施策実施5か年計画（新障害者プラン）が策定されました。その中で、「施設サービスの再構築」として、2つの方向性（下記①②とします）が、行政の今後の方針として打ち出されました。

それぞれの内容についての、あなたの考えをお答えください。

方針① 施設等から地域生活への移行の推進～障害者本人の意向を尊重し、入所（院）者の地域生活への以降を促進すること

- あなたは、新障害者プランにおける、この部分について詳しく知っていましたか。
①知っていた ②大体知っていた ③あまり知らなかった ④知らなかった
- あなたは、新障害者プランにおける、この部分について関心がありますか。
①関心がある ②まあ関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
- この方針と、あなたの個人的な考えとの一致度についてお答えください。
①一致している ②まあ一致している ③あまり一致していない ④一致していない
- あなたは、この方針がサービス利用者のQOL（生活の質）向上に、有効であると思いますか。
①有効だと思う ②どちらかというとも有効だと思う
③どちらかというとも有効ではないと思う ④有効ではないと思う
- あなたは、この方針は他の施策と比較して、どのくらい優先性があると思いますか。
①優先性が高いと思う ②どちらかというとも優先性が高いと思う
③どちらかというとも優先性が低いと思う ④優先性が低いと思う

方針② 施設の在り方の見直し～入所施設は、地域の実情を踏まえ真に必要なものに限定する。障害者施設は、在宅支援の拠点とし地域の重要な資源と位置づける。

- あなたは、新障害者プランにおける、この部分について詳しく知っていましたか。
①知っていた ②大体知っていた ③あまり知らなかった ④知らなかった
- あなたは、新障害者プランにおける、この部分について関心がありますか。
①関心がある ②まあ関心がある ③あまり関心がない ④関心がない
- この方針と、あなたの個人的な考えとの一致度についてお答えください。
①一致している ②まあ一致している ③あまり一致していない ④一致していない
- あなたは、この方針がサービス利用者のQOL（生活の質）向上に、有効であると思いますか。
①有効だと思う ②どちらかというとも有効だと思う
③どちらかというとも有効ではないと思う ④有効ではないと思う
- あなたは、この方針は他の施策と比較して、どのくらい優先性があると思いますか。
①優先性が高いと思う ②どちらかというとも優先性が高いと思う
③どちらかというとも優先性が低いと思う ④優先性が低いと思う

V. あなたの施設における地域移行（退所計画）支援等の現状についてお尋ねします。（身体障害者施設の方は、以下1～4には答える必要はありません。）

1. あなたの所属する施設の運営主体では、グループホーム等を設置していますか。
 ①設置している（ ）箇所 ②設置していない
2. 今後、あなたの施設でグループホーム等を新設する具体的計画はありますか。
 ①具体的な計画が進行中である ②具体的な計画はないが、将来の目標として考えている
 ③グループホーム等を新設する予定はない
3. あなた自身は、グループホーム等での直接処遇（指導員等としての勤務）の経験はありますか。
 ①0～4年 ②5～9年 ③10～14年 ④15～19年 ⑤20年以上 ⑥経験なし
4. あなた自身は、グループホーム統括責任者または地域ケア推進担当の経験はありますか。
 ①0～4年 ②5～9年 ③10～14年 ④15～19年 ⑤20年以上 ⑥経験なし

VI. 利用者が必要とする援助は、多様な側面をもっています。援助場面において、以下の質問1～17にあげたようなことが必要なとき、現状では「施設ケア」と「地域ケア」のどちらがよりよい援助を提供できると思いますか。 あなたの考えをお答えください。

※「地域ケア」とは、入所施設以外の、地域生活の形態のすべて（グループホーム等含む）とします。

※ もし上記Ⅲの質問1～4において、計画や経験が「ない」と答えた場合でも、以下の質問には、あなた自身の考えや経験からの推論でお答えください。

1	2	3	4	5
施設 ケア	どちら かとい えば施設 ケア	どちら ともい えない	どちら かとい えば地域 ケア	地域 ケア

身体の安全・健康維持のための援助

1. 医療機関との緊密な連携が必要なおとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助ができると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

2. 利用者の日常的健康管理（衛生への配慮、投薬管理、健康維持など）が必要なおとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助ができると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

3. 大きなケガや急病など緊急の対応が必要なおとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助ができると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

4. もしも利用者のパニックや暴力的行為への対応が必要なおとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助ができると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

1	2	3	4	5
施設ケア	どちらかといえば施設ケア	どちらともいえない	どちらかといえば地域ケア	地域ケア

日常生活をささえるための援助

5. 生活の中でADL（日常生活動作＝食事、入浴、排泄や、屋内外の移動など）の援助が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

6. 家事（洗濯や掃除、整理整頓など）の援助が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

7. ADL や家事の援助場面で、利用者の自立性を妨げない配慮が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

信頼感のある援助関係の形成

8. 生活の中での利用者一人ひとりの話や悩みごとなどに、援助者がじっくりと向き合うことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

9. 利用者一人ひとりに対し、時間的・精神的ゆとりのある援助が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

10. 利用者一人ひとりの障害特性や個性を尊重した援助が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

余暇の充実のための援助（施設外への外出の機会）

11. ※ 独力か、ヘルパー等利用で、買い物や外出が出来る利用者の場合で考えて下さい

外出や買い物の機会を増やすことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1 2 3 4 5

1	2	3	4	5
施設ケア	どちらかといえば施設ケア	どちらともいえない	どちらかといえば地域ケア	地域ケア

12. ※重い身体障害や行動障害等、専門的援助が必要な利用者の場合で考えて下さい

外出や買い物の機会を増やすことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

13. うまく意思表示できない利用者に、外出等への意欲を促すことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

社会参加をささえる援助

14. 社会生活に必要な知識・技能（公共マナーや社会生活の具体的技術等）を、利用者が習得していくことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

15. 利用者が、地域住民との交流の機会をより多くもつことが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

地域社会との「橋渡し」をする援助

16. 障害をもつ人への、地域住民の理解・協力を促進することが必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

17. もしも地域住民と利用者との間に何らかのトラブルが発生し、適切な対処が必要なとき、現状の施設ケアと地域ケアでは、どちらがよりよい援助が出来ると思いますか。

1	2	3	4	5
└──────────┘				

VII. 一般に、チームワーク型の援助体制を実行するには、組織的なバックアップが必要だと考えられます。そこで、小規模で独立した生活単位である地域ケアにおいて、下記にあげるようなチームワーク型の援助体制をとることは、現状ではどの程度可能だと思いますか。あなたの考えをお答えください。

1	2	3	4	5
可能である	どちらかといえば可能である	どちらともいえない	どちらかといえば不可能である	不可能である

職員配置の柔軟性

1. 適材適所の職員配置や、配置転換をおこなうことは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

2. 一人の利用者に対し、いろいろな個性や年齢・性別・経験をもつ援助者が関わることは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

職員間のコミュニケーション

3. 対応が困難なケースについて、職場内で検討会を開くなどの対応をすることは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

4. 援助内容や利用者の情報について、職員間で円滑な意思疎通をはかることは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

5. ある援助者の援助内容に、不適切な点がないか他の援助者がチェックすることは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

職員の教育・育成

6. 独力では対応できない援助場面において、同僚や上司から適切な助力や助言を受けることは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

7. 新人援助者への実地教育（OJT）などの職場内研修を実施することは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

8. 外部研修など、職場外の自己研さんの機会に援助者が参加することは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1	2	3	4	5

1 可能である
 2 どちらかといえば可能である
 3 どちらともいえない
 4 どちらかといえば不可能である
 5 不可能である

危機管理体制

9. 緊急時（急な利用者の入院や、職員の欠勤など）に、職員が即応できる体制にしておくことは、現状における地域ケアでは、どの程度可能だと思いますか。

1 2 3 4 5

10. 万一の災害時に備えて、その対応方法について職員間でよく合意しておくことは、現状における地域ケアではどの程度可能だと思いますか。

1 2 3 4 5

VIII. 以下に挙げた点について、よりよい援助を行っていくためには、現状をどう改善することが有効だと考えますか。施設運営という視点から、あなたの考えをお答えください。

1 そう思う
 2 どちらかといえばそう思う
 3 どちらともいえない
 4 どちらかといえばそう思わない
 5 そう思わない

身体的健康の維持・ADLの援助について

1. 身体的健康の維持・ADLの援助のためには、費用（支援費等の額）の増加が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

2. 身体的健康の維持・ADLの援助のためには、援助者の数を増やすことが、有効であると思う。

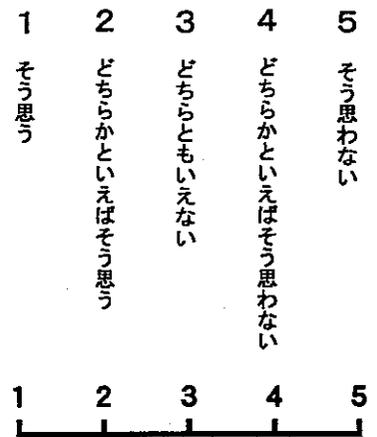
1 2 3 4 5

3. 身体的健康の維持・ADLの援助のためには、建物の改良や設備機器の充実が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

4. 身体的健康の維持・ADLの援助のためには、援助者の専門性（社会福祉の知識・技術・価値観）の向上が、有効であると思う。

1 2 3 4 5



5. 身体的健康の維持・ADLの援助のためには、施設における、組織構成や資源配分の改善（利用者編成、職員の役割分担など）が、有効であると思う。

利用者とのよりよい援助関係をつくることについて

6. 利用者とのよりよい援助関係をつくるためには、費用（支援費等の額）の増加が、有効であると思う。



7. 利用者とのよりよい援助関係をつくるためには、援助者の数を増やすことが、有効であると思う。



8. 利用者とのよりよい援助関係をつくるためには、建物の改良や設備機器の充実が、有効であると思う。



9. 利用者とのよりよい援助関係をつくるためには、援助者の専門性（社会福祉の知識・技術・価値観）の向上が、有効であると思う。



10. 利用者とのよりよい援助関係をつくるためには、施設における、組織構成や資源配分の改善（利用者編成、職員の役割分担など）が、有効であると思う。



利用者の余暇活動をより豊かにしていくことについて

11. 利用者の余暇活動をより豊かにしていくためには、費用（支援費等の額）の増加が、有効であると思う。



12. 利用者の余暇活動をより豊かにしていくためには、援助者の数を増やすことが、有効であると思う。



1 2 3 4 5
 その通り どちらかといえばそう思う どちらともいえない どちらかといえばそう思わない その思わない

13. 利用者の余暇活動をより豊かにしていくためには、建物の改良や設備機器の充実が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

14. 利用者の余暇活動をより豊かにしていくためには、援助者の専門性（社会福祉の知識・技術・価値観）の向上が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

15. 利用者の余暇活動をより豊かにしていくためには、施設における、組織構成や資源配分の改善（利用者編成、職員の役割分担など）が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

利用者の社会参加を促進することについて

16. 利用者の社会参加を促進するためには、費用（支援費等の額）の増加が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

17. 利用者の社会参加を促進するためには、援助者の数を増やすことが、有効であると思う。

1 2 3 4 5

18. 利用者の社会参加を促進するためには、建物の改良や設備機器の充実が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

19. 利用者の社会参加を促進するためには、援助者の専門性（社会福祉の知識・技術・価値観）の向上が、有効であると思う。

1 2 3 4 5

20. 利用者の社会参加を促進するためには、施設における、組織構成や資源配分の改善（利用者編成、職員の役割分担など）が、有効であると思う。

1 2 3 4 5